

第3回アンケート「地産地消について」

兵庫県では「日本の縮図」と称される多様な気候と風土を生かして、多彩な農林水産業が営まれています。

食の安全・安心が叫ばれる中、身近なところで育まれた旬の農林水産物を食する「地産地消」(地域で生産された農林水産物を、その地域で消費する)は、人々の体にも環境にもやさしく、生産者の意欲を高めることにもつながることから、県では、農林水産物を介して県内の消費者と生産者がともに支え合う関係の構築をめざし、「地産地消」を進めています。

今回は、地産地消の推進を図る上で、県民モニターの皆さんのご意見をいただくことにしました。

アンケートは以下の7つのカテゴリーに分かれています。各カテゴリー画面の末尾に「次へ」ボタンと「クリア」ボタンを設けていますので、次のカテゴリーごとに切り替えてご覧ください。

- 1: 第3回アンケート調査「地産地消について」(当画面)
- 2: (1) 農林水産物の購入について Q1、Q2、Q3、Q4
- 3: (2) 地産地消について Q5、Q6、Q7、Q8、Q9、Q10、Q10-2、Q11、Q12
- 4: 登録ID及びパスワード入力画面
- 5: 記載内容確認画面

上記5の「記載内容確認画面」で記載済みの内容をご確認の上、末尾の「送信」ボタンを押していただければアンケートが完了します。

(利用上の注意)

- ・アンケートフォームの開設期間中は、何度でも回答をやり直すことができます。
- ・回答をやり直す際に送信済みの回答結果は再表示されません。全項目に改めて回答いただく必要があります。
- ・開設期間中、最後に送信した回答のみが県に登録されます。
- ・設問の中で別ウインドウ表示される「参考資料」の最下部に、「より良いウェブサイトにするため」のアンケートが表示されますが、このアンケートは、システム上自動的に表示されるもので本県民モニターアンケートとは無関係ですので、特にお答えいただく必要はありません。

入力を開始する

[このページのトップへ](#)

(1)農林水産物の購入について

Q1

ふだん、米や野菜、肉、魚などの農林水産物は、どこで購入することが多いですか。2つまで選んでください。

- 都市近郊にある大型スーパー
- 自宅近くのスーパー
- 八百屋、魚屋などの商店
- 農協や漁協などが設けている直売所
- 通信販売や宅配(共同購入を含む)
- その他

Q2

そこで農林水産物を購入されている理由として、特にあてはまるものを2つまで選んでください。

- 販売されているものが信頼できるから
- 品揃えが豊富だから
- 価格が安いから
- 家や職場から近いなど利用しやすいから
- 食料品以外の買い物も一緒にできるから
- 調理方法を教えてくれるなど接客サービスがよいから
- その他

Q3

購入する農林水産物については、どのようなことに特に注意して選んでいますか。2つまで選んでください。

- 鮮度
- 価格
- 旬や季節感
- 味や栄養
- 産地や生産者
- 農薬などの使用状況(無農薬・低農薬・有機栽培)
- 特にない
- その他

次へ

クリア

[このページのトップへ](#)

(1)農林水産物の購入について

Q4

購入する農林水産物の産地に関して、下記(1)から(4)のそれぞれについてどの程度、気にしていますか。1つ選んでください。

(1)
ブランドとして有名な産地のものであること

- かなり気にしている
- ある程度気にしている
- あまり気にしていない
- 全く気にしていない

(2)
居住市町産もしくは近隣の市町産のものであること

- かなり気にしている
- ある程度気にしている
- あまり気にしていない
- 全く気にしていない

(3)
県内産のものであること

- かなり気にしている
- ある程度気にしている
- あまり気にしていない
- 全く気にしていない

(4)
外国産ではなく国内産のものであること

- かなり気にしている
- ある程度気にしている
- あまり気にしていない
- 全く気にしていない

[このページのトップへ](#)

(2)地産地消について

Q5
あなたは「地産地消」についてご存じですか。1つ選んでください。

【地産地消】地域で生産された農林水産物を、その地域で消費すること(参考資料1:地産地消とは [別ウインドウで開きます](#))

言葉も意味も知っていた(Q5-2へ進んでください)

言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった(Q5-2へ進んでください)

全く知らなかった(Q6へ進んでください)

Q5-2
「地産地消」については何からお知りになりましたか。いくつでも選んでください。

店や売り場の掲示物

店のチラシや広告

新聞や雑誌

テレビやラジオ

インターネット

講演会やイベントなど

国や県、市町の発行する広報紙やパンフレットなど

その他

Q6
「地産地消」のメリットとして以下のような点があげられますが、あなたの印象や実感に特に近いものを2つまで選んでください。

生産者が身近で、安全・安心である

価格が安い

旬のものが手に入る

新鮮なものが手に入る

地域の農林水産業の振興につながる

地域の活性化につながる

食料自給率の向上につながる

輸送距離が短くなり、環境負荷の軽減につながる

特にない

その他

Q7
次の農林水産物で、これまで地元産を購入していたもの、あるいは、今後、地元産を購入したいと思うものがあれば、いくつでも選んでください。
【地元産】居住市町産や近隣の市町産、もしくは県内産

米

野菜

果物

肉

魚

牛乳

卵

のり、佃煮、漬け物などの加工品

特にない

その他

次へ

クリア

[このページのトップへ](#)

(2)地産地消について

Q8

農林水産物の生産者は、消費者に直接、生産物をお届けする場として、次のような直売所やインショップを設けています。あなたはどの程度利用されたことがありますか。(1)から(3)のそれぞれについて1つお答えください。

[インショップ] スーパーなどの量販店内に設けた地元産品の取扱コーナー

(1)

都市近郊に農協や漁協などが設けた大規模直売所

- ふだんの買い物に利用している
- 週末のまとめ買いなどで利用している
- 近くに行ったり、見掛けたりした場合に利用している
- あることは知っているが、利用していない
- どこにあるか知らないので、利用していない

(2)

生産地近くの道の駅などに設けた中・小規模の直売所

- ふだんの買い物に利用している
- 週末のまとめ買いなどで利用している
- 近くを通ったり、見掛けたりした場合に利用している
- あることは知っているが、利用していない
- どこにあるか知らないので、利用していない

(3)

商店街に設けた直売所や量販店内のインショップ

- ふだんの買い物に利用している
- 週末のまとめ買いなどで利用している
- 近くを通ったり、見掛けたりした場合に利用している
- あることは知っているが、利用していない
- どこにあるか知らないので、利用していない

[次へ](#)

[クリア](#)

[このページのトップへ](#)

(2)地産地消について

Q9

直売所やインショップに対するあなたの印象や利用実感として、あてはまるものをいくつでも選んでください。

- 旬の新鮮なものがある
- 形が不揃いなど品物のばらつきがある
- 価格が安い
- 価格が高い
- 品揃えが多い
- 品揃えが少ない
- 便利な場所にある
- 不便な場所にある
- 特にない
- その他

Q10

あなたは、地元産品を購入して「地産地消」を実践しようと思いませんか。1つ選んでください。

- そうですね、既実践している(Q11へ進んでください)
- そうですね(Q11へ進んでください)
- あまり思わない(Q10-2へ進んでください)
- 全く思わない(Q10-2へ進んでください)
- わからない(Q11へ進んでください)

Q10-2

「地産地消」を実践しようと「思わない」理由はどのようなことですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

- どんな地元産品があるのかわからない
- どこで地元産品が購入できるかわからない
- 購入したいような地元産品がない
- 地元産品の価格が手頃ではない
- 価格や品質が同じなら地元産にこだわる必要性を感じない
- その他

Q11

あなたは、どのような情報があれば「地産地消」に取り組みやすくなると思いますか。特にあればよいと思う情報を2つ選んでください。

- 地産地消の意義や効果に関する情報
- どのような地元産品があるかに関する情報
- 直売所やインショップなど地元産品が購入できる場所の情報
- 地元産品の生産者や生産地域に関する情報(だれが・どこで作ったかなど)
- 地元産品の生産等の過程に関する情報(農薬・肥料の使用状況や、栽培方法など)
- 地元産品の調理方法や利用方法に関する情報
- 旬や食べ頃の情報(農林水産物の旬の暦など)
- 地元産食材を積極的に使用している飲食店の情報
- 特にない
- その他

Q12

「地産地消」をより進めるためには、どのような取り組みが効果的だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。(参考資料2:県の取り組み状況 別ウィンドウで開きます)

- 地元での農林水産物の生産量を増やす
- スーパーなど量販店で地元産品の取扱量を増やす
- 都市近郊に大規模な直売所を増やす
- 産地近くの中・小規模直売所を増やす
- 商店街の中の直売所や量販店でのインショップを増やす
- 学校給食にできるだけ地元産品(食材)を使用する
- 企業の社員食堂などでできるだけ地元産品(食材)を使用する
- 飲食店で地元産品(食材)を積極的に使用する
- 地産地消に関する情報提供や広報を充実させる
- 地元産品やその利用方法等に関する講習会やイベントを実施する
- 特にない
- その他(ご提案があればお寄せください)

次へ

クリア

[このページのトップへ](#)

広報広聴

広聴活動

更新日:2008年10月7日

参考資料1:地産地消とは

おいしい「ひょうごの恵み・旬」を味わおう - ひょうごの地産地消 -

「地産地消」と食べ物「旬」

「地産地消」とは、「地域で生産された食べ物を地域の人が消費する(食べる)」ことです。一年の中で、野菜や魚などの食べ物がもっともおいしい時期が、その食べ物の「旬」です。「旬」の時期は、味がよく栄養も豊かで、収穫量が多くなります。昔から、住んでいる地域でとれた「旬」の食べ物が、体にとって健康によいといわれています。

「地産地消」でみんな元気・みんな安心！

地産地消は、生きていくためにとても大切な、食べ物を育ててくれるふるさとの山や海や田畑を、みんなで守っていくことにつながります。今、日本は、カロリーで考えると、食べ物の約6割を外国から買っています。地域でたくさんの食べ物が収穫できれば安心です。

新鮮で栄養満点 おいしくて体にいい！

地域でとれる旬の野菜や果物は、おいしくなるまで畑の中で育て、みなさんのところに届けることができます。



地域の人が生産している だから安心！

みなさんが住んでいる地域の人が、近くの田畑や農場や海で生産したり、収穫したりしています。



学校給食にも使われています！

地域でとれた野菜や魚などをより多く取り入れた給食メニューの開発・提供が進んできています。また、給食に食材を提供している農園での子どもたちの農作業体験や生産者との交流活動も行われています。



省エネで 自然や環境にも優しいです！

近くでとれた食べ物なら、運ぶ距離や冷やして保存する期間も短いので、ますます省エネルギー。自然や環境を守ることもつながります。

関連資料

[地産地消とは \(PDFファイル / 426 KB \)](#)

PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、次のバナーのリンク先からダウンロードしてください。



より良いウェブサイトにするためにみなさまのご意見をお聞かせください

質問:このページの情報は役に立ちましたか？

1:役に立った 2:ふつう 3:役に立たなかった

質問:このページの情報は見つけやすかったですか？

1:見つけやすかった 2:ふつう 3:見つけにくかった

送信

このページの掲載内容に関するお問い合わせ

- 部署名:企画県民部知事室広聴室
- 電話:078-362-3021
- FAX:078-362-4291
- Eメール:kocho@pref.hyogo.lg.jp

[このページのトップへ](#)

広報広聴

広聴活動

更新日: 2008年10月7日

参考資料2: 県の取り組み状況

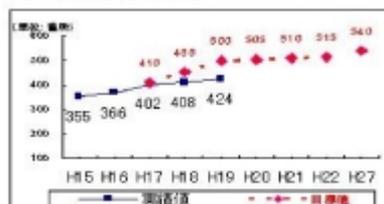
兵庫県では、農林水産物を介して県内の消費者と生産者がともに支え合う関係の構築を目指して、次のような取り組みを通じて、身近な場所で育まれた旬のものを食する地産地消を進めています。

地域産品の供給体制の整備

県民に、新鮮でおいしい旬の農林水産物を供給することや、生産者と消費者の「顔が見え、話ができる信頼関係づくり」に取り組む拠点として、直売所の整備を進めています。

近年、豊富な品揃えを望む消費者や、売り場の拡大を望む生産者の意向を反映して、農業協同組合等による大規模な直売所の整備が進んできています。一方で、大規模店舗等への統廃合により、設置箇所数の伸びが鈍ってきてはいますが、小規模直売所の地域内連携の動きも出てきました。

■ 直売所の設置数



目標値：ひょうご農林水産ビジョン2015
資料：県総合農政課調べ

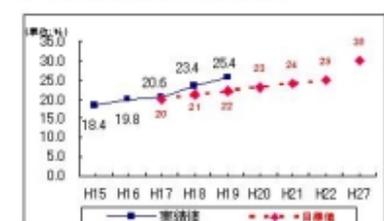
学校給食における地産地消

身近な食材に接することを通して、児童・生徒の食と「農」への理解を深めるため、地産地消の仕組みをとりいれた学校給食を推進しています。

学校給食関係者への情報提供や、地域における県産農林水産物の生産・供給体制づくり、県産品を活用した給食メニューの開発、さらには、「県産農林水産物100%の日」の設定などにより、県産品の活用促進を図っています。

また、給食に食材を供給しているほ場での農作業体験や、生産者との交流活動などにも取り組んでいます。平成19年度の学校給食における県産品使用割合(使用品目数ベース)は、25.4%に増加しました。

■ 学校給食での県産品使用割合



目標値：ひょうご農林水産ビジョン2015
資料：県総合農政課調べ

県産農林水産物100%の日とは・・・

食材の全てに県産品を使用(調理に用いる油脂、調味料類を除く)。加工品は主たる原材料が県産のものに限る。

【取り組み事例】

多可郡多可町「県産農林水産物100%の日」

多可郡多可町では、平成20年1月24・25日に「県産農林水産物100%の日」を実施しました。

地元産の食材を豊富に使用した献立を提供するとともに、どの地区でとれた食材を使用しているかなど、地産地消の大切さや規則正しい食生活について学校給食だより等で説明しています。

< 献立 >

黒豆ごはん ばち汁 高野豆腐の揚げ煮 白菜としらす干し(ちくわ)の和え物 牛乳

< 使用品目 >

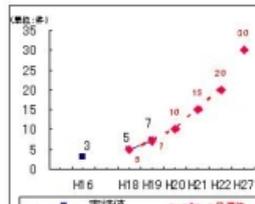
黒豆(町産)、米(県産)、そうめんばち(県産)、だいこん(町産)、にんじん(県産)、二方かまぼこ(県産)、生椎茸(町産)、葉ねぎ(町産)、さいころ高野豆腐(町産)、白菜(町産)、しらす干し(ちくわ)(県産)、牛乳(県産)

都市地域における消費の促進・支援

地域産品の入手が困難な都市地域において、地産地消の拠点づくりを進めるため、消費者グループや商店街関係者等が県内の生産者と連携して都市地域に直買(直売)所を設置するなど、主体的に地域産品を活用しようとする取り組みを支援しています。

取り扱う農産物の種類や量の検討、産地からの搬送手段や販売方法など、個別の課題を解決しながら、生産者と消費者の「顔が見え、話ができる」都市地域直売・直買の取り組みが少しずつ広がっています。

■ 消費者の直買活動[※]取り組み数



目標値：ひょうご農林水産ビジョン2015
資料：県総合農政課調べ

直買活動とは・・・

消費者が主体的に都市部に直売所を設置したり、消費者のグループが地域産品を購入する取り組み

【取り組み事例】

都市地域直売施設「旬彩採れたて便」 長田区農産物直売推進協議会の取り組み

長田区農産物直売推進協議会では、市場内の空き店舗を活用し、月2回直売活動を実施しています。

開店日には、環境保全に配慮して生産された野菜「こうべ旬彩」やお米などが店頭に並び、新鮮で安心な地元農産物を求める地域の消費者で賑わっています。

〔協議会構成員〕

長田中央小売市場協議会、神戸市消費者協会、兵庫六甲農業協同組合神戸西宮農総合センター、神戸市産業振興局農水産課

関連資料

[県の取り組み状況\(PDFファイル / 1.28 MB \)](#)

PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、次のバナーのリンク先からダウンロードしてください。



より良いウェブサイトにするためにみなさまのご意見をお聞かせください

質問:このページの情報は役に立ちましたか？

1:役に立った 2:ふつう 3:役に立たなかった

質問:このページの情報は見つけやすかったですか？

1:見つけやすかった 2:ふつう 3:見つけにくかった

送信

このページの掲載内容に関するお問い合わせ

- 部署名:企画県民部知事室広聴室
- 電話:078-362-3021
- FAX:078-362-4291
- Eメール:kocho@pref.hyogo.lg.jp

[このページのトップへ](#)